日本経済新聞

記事利用について

空飛ぶ車の受注2850機　ブラジル企業、サンパウロで製造

2023/10/17 2:00 | 日本経済新聞　電子版

NIKKEI BUSINESS DAILY 日経産業新聞

イブの受注は世界有数の規模に達している=イブ・ホールディング提供

【サンパウロ=宮本英威】ブラジルのイブ・ホールディングは「空飛ぶ車」の初の製造拠点をサンパウロ州タウバテ市に設けると決めた。株主である航空機大手エンブラエルの既存拠点内の拡張予定地に設ける。電動垂直離着陸機（eVTOL、イーブイトール）の受注は2850機と、世界有数の規模に達している。2024年に予定されている初飛行に向けて開発を進める考えだ。

■生産拠点は「戦略的な恩恵を受けられる」

タウバテに拠点を決めた理由として「2つの高速道路や鉄道に近く戦略的な物流の恩恵を受けられる」と説明する。エンブラエルの本社があるサンジョゼドスカンポス市（サンパウロ州）とも近い。

イブの幹部は「航空機製造の最新技術と生産工程を用いて、サプライチェーン（供給網）や物流など他の側面とも組み合わせる」製造場所を考えたと言及した。

イブはニデック（旧日本電産）からモーター駆動システム、英航空・防衛大手のBAEシステムズから蓄電システム、仏DUCヘリセスプロペラズから回転翼とプロペラの供給を受けることを決めている。今後も部品の調達先を随時固めていきたい考えだ。

■商用化に向け飛行品質の改善進む

23年後半には最初の原型モデル（プロトタイプ）の組み立てを予定している。23年には1億3000万ドル（約195億円）～1億5000万ドルの投資を計画している。

23年5月にはスイスで、人工の風を当てて、風の流れなどを計測する風洞試験を終えたと発表した。胴体や翼などの周囲の空気の流れが飛行中にどのように変化しているかを検証することで、飛行の品質や効率性を改善する狙いがある。

商用化に向けては現時点で開発投資が膨らむ状態が続いている。23年4～6月期の最終損益は3140万ドルの赤字（前年同期は1億720万ドルの赤字）だった。足元の時価総額は約22億ドルで推移している。

サンパウロ州タウバテ市にあるエンブラエルの拠点内で製造する=イブ・ホールディング提供

■35年までに世界で5万機の就航を予想

イブの受注は順調だ。同社が8月に公表した決算説明資料によると、これまで14カ国の28社から2850機を受注した。

売り上げ規模は86億ドルと、1年前の55億ドルから順調に増えている。地盤の南米だけでなく、北米、欧州、アジアの各地に顧客を広げているのが強みだ。

米SMGコンサルティングがまとめたeVTOLの受注数では、イブは英バーティカル・エアロスペース（1425機）や中国の億航智能（イーハン、1256機）を大幅に上回っている。

イブのeVTOLの機体はパイロットと乗客4人が乗れる仕様で、飛行距離は約100キロメートルを想定している。26年に商用飛行を始める計画を立てている。

イブは様々な企業の開発によるeVTOLが2035年までに全世界で5万機就航していると予測する。世界の500都市で1日あたり77万回のフライトの可能性があるとみている。

滑走路が不要で騒音が少なく、電気で動くため温暖化ガスの排出量の削減につながる特徴があるためだ。

eVTOLは自家用車のように誰もが購入できる仕組みではなく、ウーバーのような配車アプリに似たシステムで普及が進むとみられている。

eVTOLの受注状況		
イブ・ホールディング	ブラジル	2850機
バーティカル・エアロスペース	英国	1425
億航智能（イーハン）	中国	1256
エレクトラ	米国	1200
エルロイエア	米国	920
リリウム	ドイツ	735
アセンダンス・フライト・テクノロジーズ	フランス	555
ジョーント・エア・モビリティー	米国	530
ハートエアロスペース	スウェーデン	472
リージェント	米国	445
ボロコプター	ドイツ	400
エビエイション	米国	379
ベタテクノロジーズ	米国	303
スカイドライブ	日本	207
オートフライト	中国	205

(出所) 米ＳＭＧコンサルティング

■eVTOLは生活や旅行に「革命をもたらす」

イブはエンブラエルが20年に設立したスタートアップで、22年にはニューヨーク証券取引所に新規株式公開（IPO）を果たした。米航空大手ユナイテッド航空も1500万ドルを出資している。

イブとユナイテッドは提携しており、ユナイテッドが200機を購入し、さらに追加で200機を購入する権利を持つ。

両社は6月には、米カリフォルニア州サンフランシスコの港湾地域で、eVTOLの定期便を運航する計画を明らかにした。

ユナイテッド航空ベンチャーズのマイケル・レスキネン社長は「顧客の仕事、生活、旅行の方法に革命をもたらす可能性がある」と話し、空飛ぶ車が世界の産業に与える影響の大きさを改めて強調している。

日経産業新聞の記事一覧へ

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.